

新型コロナウイルスからの環境の変化

(原文)

近藤 恵一 (11 歳)

神奈川県

横浜市立豊田小学校

今、ぼくが活着ているのは 2030 年、この手紙を讀んでいる 10 年前のぼくがすんでいる 2020 年は「新型コロナウイルス」がものすごく世界中で流行し、普段だったらあたりまえに出来ていたことが出来なくなった年だったよね。そのため、2020 年のぼくは新型コロナウイルスの流行を悪く思っているかもしれないけど、すこしたつと様々な変化がおきたことをいまだにぼくは覚えている。

それは、人間が自然にあまり入らなくなったことで、自然はかいのせいで住み家を失い絶めつの危機にひんしていた動物たちも住み家ができ、絶めつをのがれたということだ。そのほかにも、川がおせんされていて、魚や生きものがいなかったところにもさまざまな生きものがくるようになったりし、また、外出をひかえ、あまり車を使わなかったことで、地球温暖化が弱まり、テレビや新聞でも地球温暖化という記事は見ないようになったし、夏の最高気温でも 30 度から 35 度くらいにまであったんだ。

2030 年になって自分の身の周りでもとても大きく変わったことがある。それは、コロナウイルスによって地球温暖化ではない生活の方がいいと世界中の人が思うようになり、ものすごい二酸化炭素を出す車をつくる工場が二酸化炭素を出す車をつくらなくなり、そのかわりに二酸化炭素を出さないエコカーをつくるようになったんだ。また、海のプラスチックゴミがへり、海がきれいになったため、ほとんどのプラスチックが土にうめると消えるものになったんだ。

ぼくは今、2030 年の世界で今までに海にすてられ、未だにマイクロプラスチックとしてただよっているものをどうしたらとれるかということを研究している。もしその研究が成功したら世界中の海のマイクロプラスチックがなくなるのではないかと思っている。

今、ぼくが 2020 年の世界でこの手紙を讀んでいる君に本当に言いたいことは、人間は昔、生物たちのおかげで生きぬいてこられたということだ。この昔お世話になったような生物におんをあだで返すようなことは絶対にしてはいけないと思う。このため今の君にはしっかり勉強し、こんどは生物におん返しをしてほしいと思っている。その先にはとてもいい環境がまっているから。